



令和5年度

学校だより

2月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～
横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343

防災意識を高め、災害に備える

副校長 佐々木 唯吉

明日から2月になり、暦の上では春を迎えます。吐く息が白くなる厳しい寒さの中、木々の枝の小さな蕾や1年生が植えた球根の芽を見つけ、わずかながらも春の息吹を感じました。暦だけでなく、確かに冬から春へと季節が変わっていることが分かります。

一方、震災のあった能登半島では厳しい寒さが続いています。震度7の地震発生から1か月が経つ今でも被害の全体像さえ掴めず、石川県の発表によると、避難所に避難している人だけでも15,000人に上ります。一刻も早い復旧・復興とともに、被害に遭われた方々に一日も早く平穏な日常が戻りますようお願い申し上げます。



災害はいつ起こるか予測がつかず、常に備えることや、誰とでも助け合うことができるように心構えをしておくことは本当に大切なことだと感じます。岩崎小学校では、月に一回程度、何らかの形で避難訓練を実施しています。私が着任して3年目になりますが、これまで、避難訓練の時はいつも子どもたちが真剣な表情で訓練に臨んでいて感心しています。

この1月には「火災」を想定した避難訓練を行いました。火元に近い新校舎側の階段は使用できず、全校児童が旧校舎の階段を使って避難をしました。校舎内から校庭へ出る際には避難経路が旧校舎の昇降口1つになるので行列にはなるのですが、出口に近い学級から滞りなく校庭へ避難していました。多くの子が煙を吸わないように姿勢を低くし、口にハンカチを当てていました。

全員が避難を終え、担当者が話を始めると、子どもたちの視線が一気に話し手に集まります。避難している校庭がJRの線路のすぐ脇にあるため、訓練中に何度か電車が目の前を通り、話が遮られるのですが、子どもたちの集中した視線は変わることがありませんでした。

訓練が終わっても落ち着いた雰囲気は続きます。教室へ戻る順番を待つ高学年の子どもたちは、自分たちの番が来るまで一言もおしゃべりせず整然と待っていました。その姿は、今回だけでなく、岩崎小学校の避難訓練では、当たり前の光景となっています。

4月にも火災を想定した避難訓練を行いました。今回の訓練とは想定が若干異なるため、単純に比較することはできませんが、避難開始の放送から全児童が避難完了するまでに要した時間が1分近く短縮できたのは毎回の訓練を真剣に行っている成果だと思います。

2月には、予告なしの避難訓練を計画しています。いつ起こるか予測できない災害を乗り切るために、発生日時を詳しく知らせずに実施します。全教職員が、緊張感をもち、今後来ると予想されている災害による被害をできるだけ少なくできるよう取り組んでいきます。